

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R7 %	R6 %	成果と課題	改善策・向上策
1.たくましい実力 (自立)	進路・学習部 生徒が主体的に学び、考えを深め合う授業を推進する。	(取組指標) 授業研究会や研修会で研鑽を積み、ipadの活用、課題の明確化、協働学習、学習の振り返り等を取り入れ、生徒のやる気を引き出す学習指導の工夫改善に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、生徒が授業に主体的に取り組むために、ipadの活用、課題の明確化、協働学習、学習の振り返り等を取り入れ、生徒のやる気を引き出す学習指導の工夫改善に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	93.1	100	・めあてを達成するためにどうすればよいかを考えさせる授業を展開している。 ・転換期に比べて、新しいことに取り組もうとする雰囲気停滞気味である。 ・iPadの効果的な使用法などの学習関連の研修があるとよかった。	・学習関連の現職教育を、対話的に行ったり、互見週間などの学習部関連の取組において、PDCAを回す手だてを講じる。 ・iPadの効果的な利用に関する職員研修の機会をもつと良い。
		(成果指標) 私は、「学びたい」「知りたい」「できるようになりたい」という気持ちをもって授業に参加している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、「学びたい」「知りたい」「できるようになりたい」という気持ちをもって授業に 〔1〕 参加している。 〔2〕 だいたい参加している。 〔3〕 あまり参加していない。 〔4〕 ほとんど参加していない。	1年 93.4 2年 92.5 3年 94.1 全体 93.3	1年 91.9 2年 93.5 3年 97.6 全体 94.3	・対話的かつ知的好奇心を喚起することを意識した授業を行うことができている。 ・校内テスト前などの放課後や長期休暇に学習機会の提供や基礎学習支援を目的としたSUCを行っている。	・教科担任面談など、生徒の頑張りを認める機会を増やして自信をもたせ、前向きに学習に取り組む素地を養う。 ・校内テスト前などの放課後や長期休暇に基礎学習支援をメインとしたSUCを行うなど学習を苦手とする生徒のサポートを継続し、支援の方法をより生徒に合った形にしていく。
		(満足度指標) 私の子どもは、「学びたい」「知りたい」「できるようになりたい」という気持ちをもって学習に取り組んでいる。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、意欲的に授業や家庭学習に 〔1〕 取り組んでいると感じる。 〔2〕 ある程度取り組んでいると感じる。 〔3〕 あまり取り組んでいないと感じる。 〔4〕 全く取り組んでいないと感じる。	1年 76.9 2年 75.0 3年 77.6 全体 76.5	1年 72.1 2年 66.7 3年 88.3 全体 75.7	・保護者が「宿題はないのか」と尋ねると、「学校でやった」と答える生徒が一定数いる。「与えられた課題さえ終わればいい」という意識をもっている生徒が少なくない可能性がある。	・与えられた課題だけでなく自分に必要な学習を考えて自主的に学習に向かう生徒を育てていく必要がある。そのために、明確な目標をもたせたり、家庭学習の取り組み方を示したりする方法を考えるとともに、生徒が頑張る姿を認めることを継続する。
1.たくましい実力 (自立)	教務部 進路・学習部 読書（新聞や専門誌等を含む）やICTを活用して、課題解決力の育成に努める。	(取組指標) 読書活動や、ipadなどを活用して得た情報を整理・分析し、自分の考えを発信できる生徒の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、生徒の課題解決力を高めることを目指し、本（新聞や専門誌等を含む）やipad等を活用して得た情報を整理・分析して、自分の考えを発信できる生徒の育成に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	96.6	93.5	・総合的な学習の時間にiPadを継続的に活用していることに加え、各教科でも資料の提供や振り返りなど、活用の幅を広げていることが数値の上昇につながったと考えられる。 ・今後の課題としては、情報収集のために、書物を有効に活用するような授業の展開を構築していく必要がある。	・学習支援アプリの効果的な活用法について、教員同士で紹介し合う機会を設け、さらにICTの活用を推進していく。 ・1月に図書委員会企画で取り組んだ「読書タイム」について、全校生徒の意見を集約し、生徒自らが読書に親しもうとする取り組みになるような支援をしていく。
		(成果指標) 私は、自ら課題を設定し、読書活動やipad等の活用を通じて、問題の解決のために必要な情報を収集・整理・分析し、自分の考えを伝えようとしている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	生徒	私は、自ら課題を設定し、本（新聞や専門誌等を含む）やipad等を活用して得た情報を整理・分析して、自分の考えを伝える活動に 〔1〕 取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	1年 77.5 2年 83.8 3年 84.8 全体 82.1	1年 79.7 2年 81.5 3年 91.0 全体 84.0	・2・3年生について、昨年度よりも数値が高くなっているのは、各教科の授業の中で、探究的な活動が組み込まれ、課題解決力が高まっていることを実感していると考えられる。 ・昨年に引き続き、1年生の数値が目標に達していないので、各教科の年間計画や単元計画を見直すことが求められる。	・1年生に関しては、各教科の授業の中で、早い段階から探究的な要素を取り入れていく。 ・新聞記事等を活用し、短学活のスピーチで調べたことを発表する機会をつくるなど、授業以外での取り組みについても考えていく。
		(満足度指標) 私の子どもは、読書やインターネットを用いて情報を収集し、自分の考えを発信する活動に取り組んでいる。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、本（新聞や専門誌等を含む）やインターネット等を用いて情報を収集したり、自分の考えをまとめて伝えたりする活動に 〔1〕 取り組んでいると感じる。 〔2〕 ある程度取り組んでいると感じる。 〔3〕 あまり取り組んでいないと感じる。 〔4〕 全く取り組んでいないと感じる。	1年 54.8 2年 61.3 3年 56.3 全体 57.6	1年 65.6 2年 60.0 3年 70.0 全体 65.2	・どの学年も目標に達せず、前年に比べても数値が下がっているのは、保護者が、生徒の活動や発表の様子を見る機会が少ないことが原因として考えられる。 ・数値が低い一因として、家庭でのiPad使用が、情報収集やまとめの活動と結びつかないことが考えられる。	・引き続き、「あわら孝幸学」の経過や写真をホームアンドスクールで定期的に発信していく。 ・一人ひとりが学習の成果を保護者に見せ意見をもらう活動を取り入れることで、保護者が活動を知る機会を増やしていく。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R7 %	R6 %	成果と課題	改善策・向上策
1.たくましい実力 (自立)	保健安全部 集団の中で健康と安全を意識した生活習慣の定着を図る。	(取組指標) 集団の中で自他の健康と安全を意識して行動できる生徒の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、集団の中で自他の健康と安全を意識して行動できる生徒の育成に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	96.6	100	・健康や安全について、意識して取り組んでいる。 ・生徒の命にかかわることは、教職員が前面に立ち、健康・安全に関する取組みについて、さらに意識の向上を図る必要がある。 ・今年度は避難訓練に加え、垂直避難や引き渡し訓練、教職員での不審者対応訓練も行った。	・引き続き教職員間で共通理解を図りながら、健康・安全教育に取り組んでいく。 ・年度初めに避難経路の確認に加え、緊急時の行動について考える機会を設ける。
		(成果指標) 私は、集団の中で自他の健康と安全を意識して行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、集団の中で自他の健康と安全を意識して 〔1〕 行動している。 〔2〕 ある程度行動している。 〔3〕 あまり行動していない。 〔4〕 全く行動していない。	1年 96.7 2年 93.8 3年 93.3 全体 95.0	1年 95.1 2年 91.9 3年 98.4 全体 95.1	・どの学年も目標数値を上回ったのは、各委員会でもポスター制作や放送を行い、健康、安全についての意識が高まったと考えられる。	・委員会活動での生徒主体の活動を支援しながら、引き続き日常的に自他の健康と安全を考え、意識して行動できるよう取り組んでいく。 ・訓練を学びの機会とし、知識を深めながら実践的に行動できるよう、生徒の支援に努める。
		(満足度指標) 私の子どもは、集団の中で自他の健康と安全を意識して行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、集団の中で自他の健康と安全を意識して 〔1〕 行動していると感じる。 〔2〕 ある程度行動していると感じる。 〔3〕 あまり行動していないと感じる。 〔4〕 全く行動していないと感じる。	1年 97.1 2年 94.1 3年 89.9 全体 94.0	1年 91.8 2年 88.4 3年 100 全体 93.3	・生徒との回答に差がなく、年次推移も良好である。 ・学校での取り組み等の情報発信が適切だったと考えられる。	・学校での活動の様子や保健安全部からの情報発信を継続する。 ・食生活やネット利用、睡眠時間等を含めた家庭での生活習慣や、非常時の避難場所の確認など、学校と家庭が連携して支援している良い。
2.明朗な和合・ うるわしい秩序 (協働)	生徒指導部 生徒会活動や学級活動の充実を図り、生徒主体の活動を推進する。	(取組指標) 生徒が諸活動（行事・生徒会・学級・部）を主体的に運営できるように、協働して取り組む態度の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒の主体的な活動を推進し、仲間と協働して取り組む態度の育成に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100	100	・生徒が主体的に活動できる環境整備や教員の取組への意識が向上した。 ・担当者の負担が大きい。	・学校内の諸活動に対し、担当者以外の教員との情報交換の場を設け、すべての教員が生徒を見守り、声掛けのできる体制をさらに強化していく。
		(成果指標) 私は、生徒会活動や学級活動、部活動において、仲間と協働し、自分たちで考えて行動することができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、仲間と協働して主体的に生徒会活動や学級活動、部活動に取り組むことが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 94.1 2年 94.0 3年 96.7 全体 95.0	1年 95.9 2年 92.8 3年 96.7 全体 95.1	・生徒会を中心として、先輩から引き継いだ学校文化の継承が進んでいる。 ・生徒の活動時間が確保しづらい。 ・目立たない場面での活躍が評価しにくいいため、生徒への声掛けがしづらい。	・目立たないが、丁寧に活動している生徒の姿を担当教員が情報を公開し、教員全体ですべての生徒の活躍を見守っていく体制を強化していく。
		(満足度指標) 私の子どもは、学級や部活動、学校行事等において、仲間と協働することができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、学級や部活動、学校行事等において、仲間と協働することが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 98.1 2年 89.8 3年 88.8 全体 92.5	1年 91.8 2年 91.6 3年 98.3 全体 93.9	・生徒の様子を学年通信やホームページ、ホームアンドスクールでうまく伝達することができた。 ・学校開放への参加数をもっと増やし、直接生徒の活動を見てもらうことのできる体制づくりをしていきたい。	・学校開放に保護者が参加しやすいように時期を調整したり、公開日の情報公開を強化していく。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R7 %	R6 %	成果と課題	改善策・向上策
2.明朗な和合・ うるわしい秩序 (協働)	生徒指導部	(取組指標) 自ら考え行動できる生徒を育成するために、振り返りやセルフモニタリング等を通して、自らの生活を考える活動を推進する。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、自ら考え行動できる生徒を育成するために、振り返りやセルフモニタリング等、自らの生活を考えさせる活動を 〔1〕 積極的にやっている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。	93.1	100	・振り返りやセルフモニタリング（言葉の意味）の手法についての情報共有が十分に行われなかった。	・現職教育や教科部会、学年部会で生徒の振り返りのワークシートやセルフモニタリングの手法を教員間で共有する。
		(成果指標) 私は、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、ルールの意味を考え自分の生活を振り返り、よりよい習慣が身につくよう意識して行動することが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 96.6 2年 91.4 3年 90.8 全体 93.0	1年 90.2 2年 90.4 3年 95.0 全体 91.9	・挨拶やテスト前の学習計画など学校生活への良い習慣が身につき始めている。 ・自分に関する行動は向上しているが、公共の場での奉仕的な活動への意識の高まりは今後育てていく必要がある。	・個人のルールだけでなく、社会（集団で生活する場面）で必要となる行動について考えさせ、生徒自身が自治的に学校生活を送ることができるよう声掛けをしていく。
		(満足度指標) 私の子どもは、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動することが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 92.3 2年 93.2 3年 92.1 全体 92.5	1年 90.1 2年 85.0 3年 95.0 全体 90.1	・学校で習得した力を家庭でも発揮し、保護者からも高い評価を得ることができた。	・学校の様子をホームページやホームアンドスクール、学年通信などで発信していく。
2.明朗な和合・ うるわしい秩序 (協働)	生徒指導部	(取組指標) 生徒が安心して学校生活を送るために、人権教育を深化しながら魅力ある学校づくりを推進するとともに、いじめの未然防止や早期発見・対応及び不登校への対処に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒が安心して学校生活を送るために、人権教育を深化しながら魅力ある学校づくりを推進するとともに、いじめの未然防止や早期発見・対応及び不登校への対処に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	96.6	100	・どの生徒にもいじめや不登校は起こりうるという考えの共有が不十分だった。	・いじめや不登校の未然防止の重要性を共有し、すべての生徒に積極的にかかわる意識を向上させていく。 ・担任に任せのではなく、教員全員が生徒に関わっていく意識を高めていく。
		(成果指標) 私は、安心して学校生活を送ることができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	生徒	私は、安心して学校生活を送ることが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 95.0 2年 94.9 3年 96.6 全体 95.5	1年 95.1 2年 96.0 3年 97.5 全体 96.2	・教育相談アンケートの結果から「対人関係」の他に「学習に対する不安」を訴える生徒への個別対応が十分でなかった。	・教育相談や教科面談、デジタル生活日誌の記載事項を教員間で共有し、子供の不安や相談事の早期発見、早期対応につなげていく。
		(満足度指標) 私の子どもは、安心して学校生活を送ることができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	保護者	私の子どもは、安心して学校生活を送ることが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 99.0 2年 90.9 3年 99.0 全体 94.6	1年 90.1 2年 91.6 3年 98.3 全体 93.3	・悩みや不安を抱えているが教員に相談できていない生徒への対応が十分にできていない。	・アンケートの結果や生活日誌への記載事項に対する情報共有を強化し、教員全体で細やかな対応を実践していく。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R7 %	R6 %	成果と課題	改善策・向上策
3.地域を担う 人材の育成 (貢献)	進路・学習部 地域探究活動を 充実させ、ふるさと 教育（あわら考 幸学）の推進に 努める。	（取組指標） ふるさと「あわら」に誇りと愛着をもち、知 識を深め、地域に貢献しようとする態度 の育成にに取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、生徒がふるさと「あわら」への理解を深め、地域に貢献しようとする意識が高ま るよう、あわら考幸学の取り組みを 〔1〕 積極的に行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。	96.6	100	・「あわら考幸学」の活動において、 地域のことを考えさせたり、地元の 人と関わる機会をもたせる活動を行 い、郷土愛の醸成を図っている。	・教職員のあわら考幸学の取組へ の意欲・関心が高く、生徒が発見し た課題を解決する手だてを、生徒と ともに考える姿勢をもって指導にあ たることができている。今後もこの活 動を継続していく。
		（成果指標） 私は、ふるさと「あわら」に誇りと愛着をもち、地域に貢献したいと考えている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、ふるさと「あわら」について深く学ぶとともに、地域への貢献のあり方を考えなが ら、あわら考幸学 〔1〕 取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	1年 92.5 2年 93.6 3年 88.2 全体 91.3	1年 89.4 2年 91.9 3年 92.6 全体 91.3	・地域について深く知ったり、地域の 人と関わったりする活動を通して、 地域をより身近に感じ、地域の 一員である意識を高め、地域に貢献 する気持ちを醸成できている。あわ ら考幸学の成果が出ていることがう かがえる。	・積極的に地域の方に協力を仰 ぎ、関わることに意欲的な生徒が増 えており、地域との連携の機会が増 えた。今後は協力を受け入れてくれ た地域の方に感謝し、気持ちを伝 える機会を増やしていきたい。今後 もあわら考幸学の取組を継続してい く。
		（満足度指標） 私の子どもは、ふるさと「あわら」の発展を 意識してあわら考幸学に取り組んでい る。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、ふるさと「あわら」の発展を意識してあわら考幸学 〔1〕 取り組んでいると感じる。 〔2〕 ある程度取り組んでいると感じる。 〔3〕 あまり取り組んでいないと感じる。 〔4〕 全く取り組んでいないと感じる。	1年 78.8 2年 76.1 3年 69.7 全体 75.1	1年 59.0 2年 58.3 3年 85.0 全体 67.4	・ホームアンドスクールを活用し、「あ わら考幸学」の活動の様子を保護 者に共有している。 ・プレスリリースを積極的に行うこと で、新聞にて本校の取組が取り上 げられている。 ・「あわら考幸学」で、親にあわらのこ とを聞く課題を出している。（1年 生）	・ホームアンドスクールやマスコミの活 用が、「あわら考幸学」の保護者の 肯定的な意見につながっていること がうかがえる。今後もこのような取組 を継続する。
3.地域を担う 人材の育成 (貢献)	生徒指導部 地域の人と関わる 体験活動の充実 を図る。	（取組指標） 生徒が地域の行事やボランティア活動、 資源回収などに積極的に参加するよう 働きかけを行う。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒が地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加するよ う働きかけを 〔1〕 積極的に行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。	89.7	96.8	・年間を通して参加可能な行事や ボランティア活動の情報が十分に共 有されていない。	・年間を通して参加可能な行事や ボランティア活動を洗い出し、月ごと に紹介や声掛けのできる体制を整 える。
		（成果指標） 私は、地域の行事やボランティア活動、 資源回収などに積極的に参加してい る。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに 〔1〕 参加している。 〔2〕 ある程参加している。 〔3〕 あまり参加していない。 〔4〕 全く参加していない。	1年 75.9 2年 70.1 3年 62.2 全体 69.4	1年 66.7 2年 65.3 3年 78.7 全体 70.2	・学校外の人々と連携し、ボランティア や行事の紹介がなされるようになり、生 徒が参加しやすい環境が整備された。 ・年間を通じて参加可能な行事やボラ ンティア活動の情報が十分に共有され ていない。	・常任委員会のボランティア委員を活 用し、生徒が参加可能な地域の行事 （祭りなど）やボランティア活動を洗い 出し、昼の放送やポスター形式で周知 していく。 ・学校外の人材を活用し、地域行事や ボランティア活動の募集の機会を増やし ていく。
		（満足度指標） 私の子どもは、地域の行事やボランティア 活動、資源回収などに積極的に参加し ている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに 〔1〕 参加している。 〔2〕 ある程度参加している。 〔3〕 あまり参加していない。 〔4〕 全く参加していない。	1年 78.9 2年 71.6 3年 65.2 全体 72.2	1年 73.8 2年 68.3 3年 83.4 全体 75.1	・生徒の活動状況が十分に情報提 供されていない。	・ホームページ、ホームアンドスクー ル、学年通信を通して、生徒の活 動を発信していく。